

古宇利島の祭場と儀礼

大 城 學

(沖縄県立博物館)

Religious Service Sites and Ceremonies of Kouri Island

Manabu OSHIRO

(Okinawa Prefectural Museum)

はじめに

古宇利島に、次のような説話が伝承されている。〔註-1〕

むかしむかし古宇利島（運天港の入り口にある小さな島）に男の子と女の子が現れた。二人は裸体でゐたが、まだこれを愧づるといふ気は起らなかった。そして毎日天から落ちて来る餅を食つて、無邪気に暮らしてゐたが、餅の食ひ残しを貯へるといふ分別が出るや否や、餅の供給が止まつたのである。そこで二人の驚きは一通りでなく、天を仰いで、

たうたうまへされ、たうたうまへ

（お月様、もしお月様）

大餅やと餅お賜べめしうれ

（大きい餅を、太い餅を下さいまし）

うまぐる拾うて、おしやげやべら

（赤螺を拾うて上げませう）

と歌つたが、その甲斐も無かつた。彼等はこれから労働の苦を嘗めなければならなかつた。そして朝な夕な磯打際にウマ

グルなどをあさつて、玉の緒を繋いでゐたが、或時海馬の交尾するのを見て、男女交媾の道を知つた。二人は漸く裸体の愧づべきを悟り、クバの葉で陰部を隠すやうになつた。今日の沖縄三十六島の住民はこの二人の子孫であるとのことだ。

この説話は、旧暦7月に行われる祭祀＜ウンジャミ＞で、男女1組の神役がフンシヤーという根家の1番座敷で共寝のしぐさを演じたという、かつて行われていた儀礼とも関わりがあるといわれている。また、この説話に起因してか、古宇利島の拝所に祈願に訪れる人が多いという。

このように、古宇利島には説話を中心とする口頭伝承をはじめ、衣・食・住、生産・生業、交易、社会生活、信仰、民俗知識、民俗芸能、人生儀礼、年中行事等さまざまな有形無形の民俗事象があるが、そのなかから、本稿では、①祭場（＝拝所）、②神職組織、③年中行事（＝儀礼。祭祀）をとりあげる。

なお、古宇利島は、南の港近くに形成さ

れている本集落と、島の中央部のウイバル（上原）、北側のシチャバル（下原）という明治期以降に形成された集落から成る。本稿では、本集落の民俗事象を扱うことにする。

古宇利島での調査は、古宇利春雄氏（1927年7月5日生）と、菊池園子氏（民宿くしらす経営）にお世話になった。古宇利さん宅はムラの草分けの家（根家）で、屋号をフンシヤーといい、春雄氏は神人で、フンシ神である。春雄氏から御嶽や年中行事等について聞き取りをし、菊池氏には御嶽の所在確認のために車で同行してもらった。厚く感謝申しあげる次第である。

I. 祭 場

古宇利島のことは、『琉球国由来記』巻十五（1713年）には今帰仁間切「郡村」と表記されていて、御嶽は次の3つを紹介している。

中 嶽

神名、ナカモリノ御イベ

三八月、四度御物参、有祈願也。

サウ嶽御イベ

（神名不伝）

カマニシ嶽御イベ

（神名不伝）

現在、古宇利島における御嶽の数はくナナタキと称しているように、次の7つの御嶽が信仰の対象となっている。御嶽の現況をみてみよう。

1. ナカムイ

港近くにある農村環境改善センターの北西側にある小高い所に位置する。御嶽とその周辺は古宇利原C遺跡である。御嶽の周りにはマーニ（クログ）やガジュマル等が生えている。入り口にコンクリート製の階段がある。嶽域内にコンクリート製の祠があり、その中に石が3個置かれている。祠の後方に岩がある。

2. マーハグチ

古宇利集落の北東側に位置する。農道から山の方に向かって参道がある。50m程行くと大きな石灰岩があつて、岩の少し窪んだあたりに、直径15～20cm位の石が数個置かれている。そこがイベで、祈願のあとがある。周りはススキや木が生い茂っているが、イベの前は2m四方にわたって草が生えていない。この御嶽の一帯は、ウガミヌシチャという原名である。

この御嶽は、7つの御嶽で最高位にランクづけされている。古宇利島は天降りした3人の親子が造った島で、この御嶽には、3人の骨をまつてあると語り伝えられている。

3. トウンガヌウガミ

古宇利集落の東側、マーハグチの南東側に位置する。木が生い茂っていて中に入らず、イベを確認することができなかった。現在、年中行事にこの御嶽のイベで祈願することはないという。

4. ソーヌウタキ（御嶽）

島の東側、海岸沿い（岬）の岩の下にあるというが、イベを確認することができな

かった。御嶽の一带は、ソヌバナと称する。現在、年中行事にこの御嶽のイベで祈願することはないという。

5. プトゥキヌメー

島の北方、下原集落の東側に位置する。この御嶽の一带はプトゥキヌウイバルと称する。一周道路沿いにある、道路脇からコンクリート製の階段を十数段登りきったところに大きな岩があり、そこが御嶽である。入り口はススキが生い茂っている。全体は洞窟の形状をしており、イベには石筍と石筍の間にシャコ貝の香炉がある。

6. ビジヌメー

古宇利集落の北西側、一周道路沿いにある。道路脇から細い道を山の方に向かって30m程行ったところに、長さ2m、高さ90cm位の大きな石灰岩がある。そこがイベで、岩の前に10～15cm位の石が数個あり、祈願のあとが残っていた。岩の周囲はクワズイモやホシダが生い茂っている。

7. マチジヌウイ

古宇利小・中学校の後方、マーハグチの北側にある。木が生い茂っていて中に入らず、イベは確認することができなかった。現在、年中行事にこの御嶽のイベで祈願することはないという。

以上が古宇利島の七嶽（7つの御嶽）である。一方、御嶽ではないが、祭場として次のものがある。

①神アシャギ

ナカムイの北側、フンシヤーの東隣りにある。4本柱で、屋根ともにコンクリ

ート製。アシャギの中もコンクリートを敷きつめてある。神アシャギ前庭はアシャギナーといい、その南端に舞台がつくられている。

②クワツサヤー

ナカムイの後方、海岸沿いにある拝所で、通称<お宮>。鳥居があり、それをくぐるとコンクリート製の祠がある。中に3つ石がある。拝所はブロック塀で囲まれている。

③シラサ

クワツサヤーの前に突き出た岩場をいう。7月のウンジャミや12月のムユーウイミのときに、神送りの祭場として使用する。

④ウミシル神

フンシヤー（古宇利春雄さん宅）の庭にある。コンクリート製の祠の中に3つ石がある。旧暦1日と15日に、フンシ神が拝む。ウンジャミのとき、祠に縄を掛けて舟漕ぎ儀礼を行う。

Ⅱ. 神職組織

神職者は<カミンチュ。神人>と呼ばれている。後継者不足で、現在、カミンチュは全員そろっていない。名称と員数は次のとおりである。

ヌールと掟神は代だい家系で継承していない。継承は、そのときに<神>の靈魂がのりうつった女性が後継者となるという。フンシ神は、代だい古宇利家（屋号：フンシヤー）が継承している。

1. ヌール (ノロ)

1人。現在のヌールは、玉城タルさんである。かつてヌールには土地 (ヌール地) が与えられたが、現在、そのような制度はない。管轄する御嶽はマーハグチ、トゥンガヌウイ、ソーヌ御嶽、プトゥキヌメーである。

ヌールに選ばれた人は、旧暦6月24日に行われるハミサガイで、就任式とお祝いをする。

2. ウッチガミ (掟神)

1人。御嶽はビジムメーを管轄する。

3. ポーシー神

2人。ユー神、イリガサ神ともいう。現在、この神役はいない。そのために、旧暦7月のウンジャミのとき、フンシヤーの1番座敷で共寝の仕草を演じるという重要な儀式を行うことができない。

4. ミチチマーイ神

3人で構成。サンムナーともいう。御嶽はマチジヌウイを管轄する。現在、この神人はいない。そのために、旧暦1月15日、5月15日、9月15日にマーハグチ御嶽で行っていた行事・マーハグチヌウグワンが行えない状況にある。

5. サーザーウェー神

クニマーイ神ともいう。9人で構成されている。

以上は女性の神職者であるが、男性神職者には、次の2者がいる。

①ウミシル神

玉城家 (屋号：マーズスヤー) の家長があたり。

②フンシ神

古宇利家 (屋号：フンシヤー) の家長があたり。御嶽はナカムイを管轄する。また、フンシヤーの庭にあるウミシル神の祠も管轄する。

Ⅲ. 年中行事

はじめに、『琉球国由来記』巻十五 (1713年) に記載されている古宇利島関係の祭祀をみてみよう。

郡巫火神

麦稻四祭、併年浴・大折目・柴指・芋折目、三日崇時、仙香、五水壺沸六合 (一祭ニ貳合完。百姓中)

山留ニ竹木伐故、為作物、崇祈之時、仙香、五水四合 (上同) 供之。

郡巫、祭祀也。

神アシアゲ

麦稻穂之時、芋神酒ニ完、肴十四器完 (オエカ人・百姓)

同大祭之時、蕃薯神酒ニ完、肴拾四器完、赤飯ニ器 (オエカ人・百姓) 麦四丸キ、粟四結 (上同。巫・掟神へ遣也) 年浴之時、蕃薯神酒ニ、肴十四器、赤飯ニ器 (上同)

大折目之時、蕃薯神酒ニ、肴・赤飯 (上同) コバ餅七十三本、魚七十五 (上同。巫・掟神へ遣也)

柴指・芋ナイ折目之時、蕃薯神酒四完、肴廿八器完 (上同) 供之。

郡巫、祭祀也。

毎年七月、大折目トテ、海神祭、且作毛之為ニ、巫・大根神・居神、都合貳拾人余、城内、ヨウオスイト云所ニ、タモトヲ居へ、花・五水（両惣地頭ヨリ出ル）祭祀シテ、アワシ川ノ水トリ、巫・大根神、浴テ、七度アザナ廻リイタシ、於庭酒祭ル也。（自按司出ル）ソレヨリ縄ヲ引張、船漕真似ヲ仕リ、城門外ヨリ、惣様馬ニ乗、弓箭ヲ持、ナカレ庭ト云所ニ参リ、塩撫、親川ニイタリテ水撫デ、又城内、ヨウオスイニテ、祭祀也。

さて、現在行われている集落レベルの年中行事を中心に、その概要を記してみる。これらのなかで、今年度、実際に見学したのは<ウンジャミ>だけである。なお、概要に紹介した月日はすべて旧暦である。行事に使う供物の米や線香は字から支給される。字の予算で<ウグワン費（行事費）>が計上されている。

1. 正月。チータチ。

1月1日。各家の若者が、早朝、集落の東側にある井戸（アガリハー）から水（若水）を汲んでくる。若水でお湯を沸かし、仏壇にお茶を供える（ウチャトー）。また、若水で家族が洗面する。そのとき、東方に向かって、「くわぬちゃーや みふどうわしみそーち／うやぬちゃーや わかげーらちきみそーれ」（子どもたちは、成長させてください。大人たちは、若返えらせてください）と唱えたという。

朝7時ごろに、アサウグワン（朝御願）

が行われる。神人（カミンチュ）、区長、有志たちが酒と線香（ヒラウコー）を持って、クワッサヤー（お宮）とアガリハー（東の井戸）に詣でる。1年間の健康祈願をする。

2. ハチウクシ

1月2日。仕事始めの行事。舟主は舟霊（フナダマ）をまつり、航海安全と大漁祈願をする。神人と区長は、お宮で豊作と大漁祈願をする。

3. ウマチー

2月13・14・15日。麦の収穫際。

13日と14日の深夜1時ごろ、フンシヤー（古宇利家）の家長が、ナカムイに向かって麦の豊作感謝とムラ人の健康祈願をする。フンシヤーの家長は神衣裳を着けて杖をついて、13日はナカムイの杜の西側から、14日は杜の東側からナカムイに向かって祈願をする。祈願をするときは、ムラ人はフンシガミに会ってはいけない。この両日、フンシヤーでは、フンシ神の古宇利春雄氏ひとりだけで寝る。他の家族の者は与所の家で寝る。

15日の朝、ヌール、掟神、ミチチマーイガミが集落の東側の畑（ハーバル）から麦の穂を3本とってくる。麦の穂をナカムイに献饌して、神人は豊作祈願をする。その後、神アシャギの前にカマドを設置し、鍋にアガリハー（井戸）から汲んできた水を入れて沸騰させ、その中に麦の穂を入れてたぎらかす。そのたぎり具合で、この年、台風が何回、どこから来るのかを占う。その後、麦を皿に並べて、神人たちが神アシャ

ギの中から東の方に向かって豊作の感謝と祈願を行う。

なお、神人がハーバルの畑から麦の穂をとってくる往復路で、ムラ人は神人に出会わないようにする。出会ったムラ人は、酒を持参し、ナカムイで詫びをしなければならぬ。もし、詫びをしなければハブに咬まれるという伝承がある。

4. ムシアシビ

4月中旬～下旬。害虫駆除の行事。各字（東・西・中・上原・下原）が畑からとってきた害虫を、芭蕉の葉柄で作った舟に乗せる。舟は1艘だけつくる。東の浜（ハンチビ）で、神人が酒、餅、豆腐、豚肉を供えて祈願をしてから舟を海に流す。潮がひくときに害虫を流す。そのとき、「ユスジマンカイ ナガリティイキヨー（余所の島に流れて行け）」と唱える。かつてはその後に相撲大会が行われていたようだ。

5. プーチヌウグワン

4月中旬～下旬。プーチゲーシともいう。プーチは流行病の意。流行病や災厄を祓い、健康祈願をする行事である。かつては、左衽になった縄に豚の骨を結わえ、2本の竹につるして、島の入り口である浜（チグチといい、5か所ある）に立てて、神人たちが流行病や災厄祓いと、ムラ人の健康祈願をした。現在、行事は簡略化され、縄は用意しない。神人と区長がチグチで祈願するだけである。この行事は9月にも行われる。

6. タキヌウグワン

4月下旬。ムラの弥栄を祈願する行事で

ある。神人と区長が、ナナタキ（7つの御嶽）を廻って、酒、米、線香を供えて祈願する。イベまで行けない御嶽は、ウトウシ（遙拝所）で祈願をする。廻る順序は①トゥングヌウガミ、②マーハグチ、③ソーヌ御嶽、④プトウキヌメー、⑤ビジヌメー、⑥マチジヌウイ、⑦ナカムイである。

9月下旬にも、この行事を行う。

7. ウマチー

5月13・14・15日。粟の収穫際。13日と14日の深夜に行われるフンシ神の祈願、15日の祭儀の仕方は、(3) ウマチー（2月13・14・15日）と同様である。15日の朝、ヌール、掟神、ミチチマーイガミが集落の東側の畑（ハーバル）から粟の穂を3本とってくる。粟の穂をナカムイに献饌して、神人は豊作祈願をする。

8. シンチャイ・ヌバガタイ

6月23日。神人の就任祝いに関わる行事である。シンチャイ・ヌバガタイとは、退いてまた出るという意。新しい神人が誕生するときは、門中でお重を用意してヌール家で神人誕生の報告をする。新しい神人が誕生しない年は、アサウグワン（朝御願）をヌール家で行う。

9. ハミサガイ

6月24日。神人の就任祝い。エージュビエーといって、新しく神人の仲間に加えてもらう意味のことばがある。そのときは、新しい神人の方からお重を用意してくる。

神人の後継者が決まったときには、夜、ヌール家で就任祝いをし、その後、神アシャギの庭で女性だけの踊りがある。

その晩、ユーニガイ（世願い）を行う。
各家から御飯をもらい、ヌールの家でお供えして祈願をする。祈願後、区事務所前に行き、そこに吊るしてある蛸をとり、御飯といっしょに食べる。

10. サーザーウェー

6月25日・26日。祓い清める行事である。
サーザーウェーガミ（クニマーイガミ）と
いって男女9人で構成する神人が、男は扇子を持ち、女はクバ扇を持ってムラの拝所や招待のあった家いえを廻って踊りをする。特に、新築した家はサーザーウェーガミを招待し、家を清めてカリー（嘉例。縁起のよいこと）をつけてもらう。踊りは円陣をつくり、鼓を打ち鳴らしながらおどる。

25日は、神アシャギ、ウンナヤー、掟神家で踊ってから、招待のあった家いえを廻り、最後にフンシヤーで踊る。26日は区事務所、ヌール家で踊ってから、招待のあった家いえを廻り、最後にお宮で踊る。両日も午後4時ごろからはじまる。サーザーウェーでうたう神歌の歌詞を紹介しよう。

[踊りの歌]

- ①わーやーに むしるしきへーてい
サーザーウェーヌ ワーヌシージー
ツァーツァー（囃子、以下※印）
②うがみばーる ふくゆんどー ※
③みひさんまんちる うがむんどー ※
④うんなじむや すいたーびょん ※
⑤ななわかしや ふたわかし ※
⑥ひさしがまや ちんばみせん ※
⑦とうばやじまりん ゆじけーみせん※

[道歌。招待のあった家

へ行く道中でうたう歌]

- ・やまとうんまぬ はいみせんどー
わがぬーるうかみぬ
うまちみせんどー
やまとうふにぬ はいみせんどー
[踊り終えて、家を
出て行くときの歌]

- ・エー たちな ヨーイ
かみぬちゃー ヨーヘーイ
いすぎいすぎ かみぬちゃー
あーわんていーちどう
とうばちょんどー
ヘーイヨーナレーホー

11. ウンジャミ

7月、盆後の初亥の日。豊作や大漁の感謝と祈願を行う。

朝8時ごろから港近くに建てられた農村環境改善サブセンターの側で、男たちがハーリー舟を並べて、舟の点検や手入れをする。ハーリーのとき沖を折り返す目印のブイも準備する。

一方、集落を東・中・西の3つに分けてあるが、各ムラの役員の家では係りの人たちが料理をつくり、昼食をそこでとる。

女の神人（＝神女）たちは、お昼前にヌミ（弓の意）と称する6尺位の棒（桎材が多い）に白紙を5か所に巻き付けてカジェー（飾り）とする。また、ヌミの一端（上部）に唐船を描いた旗（トーシンケージ）をつける。

午後1時半ごろ神アシャギに神人たちが集まる。神女は白の神衣装を着て、頭にはハブイ（方言でピーピーカンジャと称する

蔓でつくった被り物)をしている。持参したヌミは神アシャギの側に置いてある。

膳に盛った米の上に線香(ヒラウコー)を立て、神人や区長、有志たちは神アシャギの中から南の方(ナカムイ)に向かって祈願をする。祈願の内容は、ムラの守護神に過去1年間の豊作、豊漁、ムラ人の健康、ムラの弥栄(これらを世果報という)を感謝し、あわせて向こう1年間の世果報をお願いする。

祈願後、ヌミを持っている神女は神アシャギの外(南側)に出て、神アシャギに向かって立つ。神女たちは横1列に並び、砂で書かれた角形の上をコの字を描きながら歩き出す。それを7往復する。神遊びである。終わると神女に餅が配る。

神女1人が、ヌミの上端部に餅を2個吊るして、ハイ、ハイ、ハイと3回掛け声をかけ、ヌミを上突き上げる。それをもう1人の神女が自分の持っているヌミで突き落とす。それが終わるとナカムイに向かって手を合わせ、祈願をして神アシャギでの儀礼は終わる。神人たちは、神アシャギの周りで祭儀をみている女性に、餅を分けてあげる。この餅は、男は食べてはいけないといわれている。

神人たちはヌミを持って、神アシャギの西隣にある草分けの家(根家)・フンシヤー(古宇利家)に行く。祭りの日、神人たちがフンシヤーに出入りするときは、東側の門・カミジョーを使う。祭りの日以外はカミジョーは閉ざされている。フンシヤーの庭にあるウミシル神の祠に東西に縄を掛け、

その中にヌミを持っている神女が入る。縄は舟を意味し、神女たちはヌミを立てて、両手で握って輪を描くように上部を回す。これは舟漕ぎの儀礼である。このような舟漕ぎ儀礼は、国頭村字比地のウンジャミでも行われている。

舟漕ぎをしている最中に、縄の外にいる男神人(ポーシー神)が、縄の中にいる女ポーシー神の首を抱きしめて連れ出し、フンシヤーの1番座敷にあがって共寝の仕草を演じる。この祭儀は、ジュゴンが交尾するのをみて、はじめて男女の交わりを知ったという、古宇利島の説話に由来しているという。この祭儀は、本部町字伊野波のシニグイに演じられる<ムックジャ>や同町字辺名地のシニグイに演じられる<スルガー・アップー>と同じように、交接の様を演じることによって、ものの生殖を暗示し、それが田畑にいたっては農作物の生殖生産、豊かな稔りをうながそうとする呪術-模倣呪術(imitative magic)あるいは類感呪術(homeopathic magic)-である。なお、この祭儀は現在、ポーシー神がいないために行っていない。

神人たちはフンシヤーを移動し、海岸端の拝所・クワッサヤーの前方横で、神アシャギの庭でやった祭儀と同じことを行う。ここでは神女たちが、鳥居の外からクワッサヤーに向かって横1列に並んで竹竿を持って、前後に揺する所作を演じる。やはり舟漕ぎの儀礼であらう。

クワッサヤーでの儀礼が終わると、クワッサヤーの前のシラサと称する岩場の上で、

東に向かってヌミを立てて、前後に動かす所作を演じる。神送りの祭儀だという。

これで神女たちの祭儀は終わるが、引き続き港（ウブドゥマイ）で男たちによるハーリーが行われる。かつて、ウガンバーリーには、神人が舟に乗ったという。また、ハーリーの出発は、神人がハーリー舟を押し出すのが合図であったともいわれている。ハーリーは港で東西を往復して漕ぐ。以前は女性が漕いだようである。

東の方向に漕ぐのは、大宜味村字塩屋を意識しているという。これには次のような伝承がある。むかし、世の始まりのころ古宇利島に兄妹がいたが、兄は島に残り、妹は塩屋に渡って住むようになった。このとき兄が妹を送り出したところがウブドゥマイの浜であったという。それ以後、古宇利島を男神、塩屋を女神として、両ムラの弥栄とムラ人の幸せを祈願するためにウンジャミの行事をやっているのだという。なお、この日は、塩屋でもウンジャミが行われている。しかし、古宇利島の年中行事で、塩屋を意識するのはウンジャミのときだけであるというから、東の方向に神送りをしたり、舟を漕ぐことが、塩屋に関わりがあるのかどうかは、今後検討しなければならないであろう。

古宇利島の集落の立地から考えると、東の方に海が開けており、その方向がもしかするとニライ・カナイかも知れない。ニライ・カナイに向かって神送りをしたり、舟漕ぎをするということは、よそのムラでもやっていることである。古宇利島の年中行

事でも、2月のウマチーと5月のウマチーで集落の東の方にある畑（ハーバル）から麦や粟の穂をとってくるし、それらの穂を神アシャギの中から東方に向かって祈願をしている。また、12月のムユーウイミの神送りでも、シラサから東方に向かって神人たちが祈願をしている。以上の事例から、古宇利島の祭祀では、やはり、東方を意識していることがわかる。

12. カミウグワン

8月10日。以前は、門中ごとに黍餅をつくって神人の家に届け、神人たちは神アシャギにその餅を供えて、ムラの弥栄を祈願した。現在は、供物を字の方で用意している。また、以前は、ムラ人がフンシヤーの神棚を拝し、家族の健康と家内繁昌を祈願していたようだ。

13. プーチヌウグワン

9月中旬～下旬。(5) プーチヌウグワン（4月中旬～下旬）と同じ内容である。4月のプーチヌウグワンに対して、9月のものをくシム（下）ヌプーチヌウグワン>という。

14. タキヌウグワン

9月下旬。ムラの弥栄を祈願する行事である。祭儀の内容は、(6) タキヌウグワン（4月下旬）と同じである。

15. ムユーウイミ

12月20日。ムラの1年間の御願解きをする行事である。ヌール、掟神、フンシ神の3人の神人がクワッサヤーとシラサの2拝所で、酒、米、線香を供えて祈願する。シラサでは東方に向かって祈願する。これは

神送りの祭儀である。

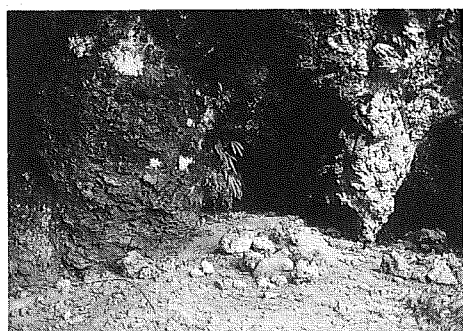
以上、現在行われている古宇利島の集落レベルの年中行事を紹介した。1月15日、5月15日、9月15日の〈マーハグチヌウグワン〉のように、戦後一時期までは行っていたが、神人の後継者がいないために、現在行われていない重要な行事もある。この行事の内容を紹介してみよう。〔註-2〕

この日、マーハグチ御嶽の管理者であるミチチマーイ神2人（女性）は、家で（昔は海で）沐浴をして体を清め、屋敷内には塩をまいて悪魔祓いをしてから、満潮時にマーハグチの御嶽に行く。そこで全裸にな

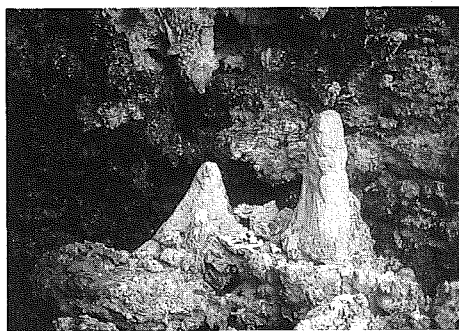
って、御嶽に納められている先祖の骨（この地開闢の男女とその子合わせて3体の骨だといわれている）を酒（昔は芋御酒）で洗う。この行事の前3日間は血の出るものは良くないものとされ魚肉、豚肉等を食べてはならず、昔は夫婦の営みまで禁止されたとのことである。

〔註-1〕 伊波普猷「琉球の神話」『古琉球』所収（『伊波普猷全集』第1巻、1974年）

〔註-2〕 琉球大学民俗研究クラブ「古宇利島調査報告」『沖縄民俗』（第8号、1963年）



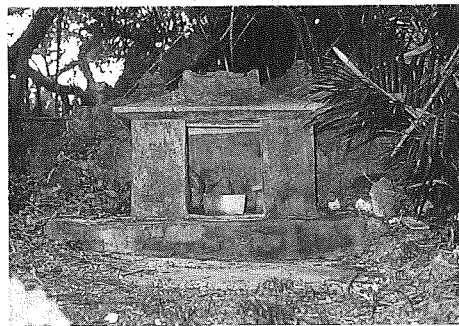
マーハグチ（御嶽）



プトウキヌメー（御嶽）



ビジヌメー（御嶽）



ナカムイ（御嶽）



クワッサヤー（お宮）



シ ラ サ



神アシャギ



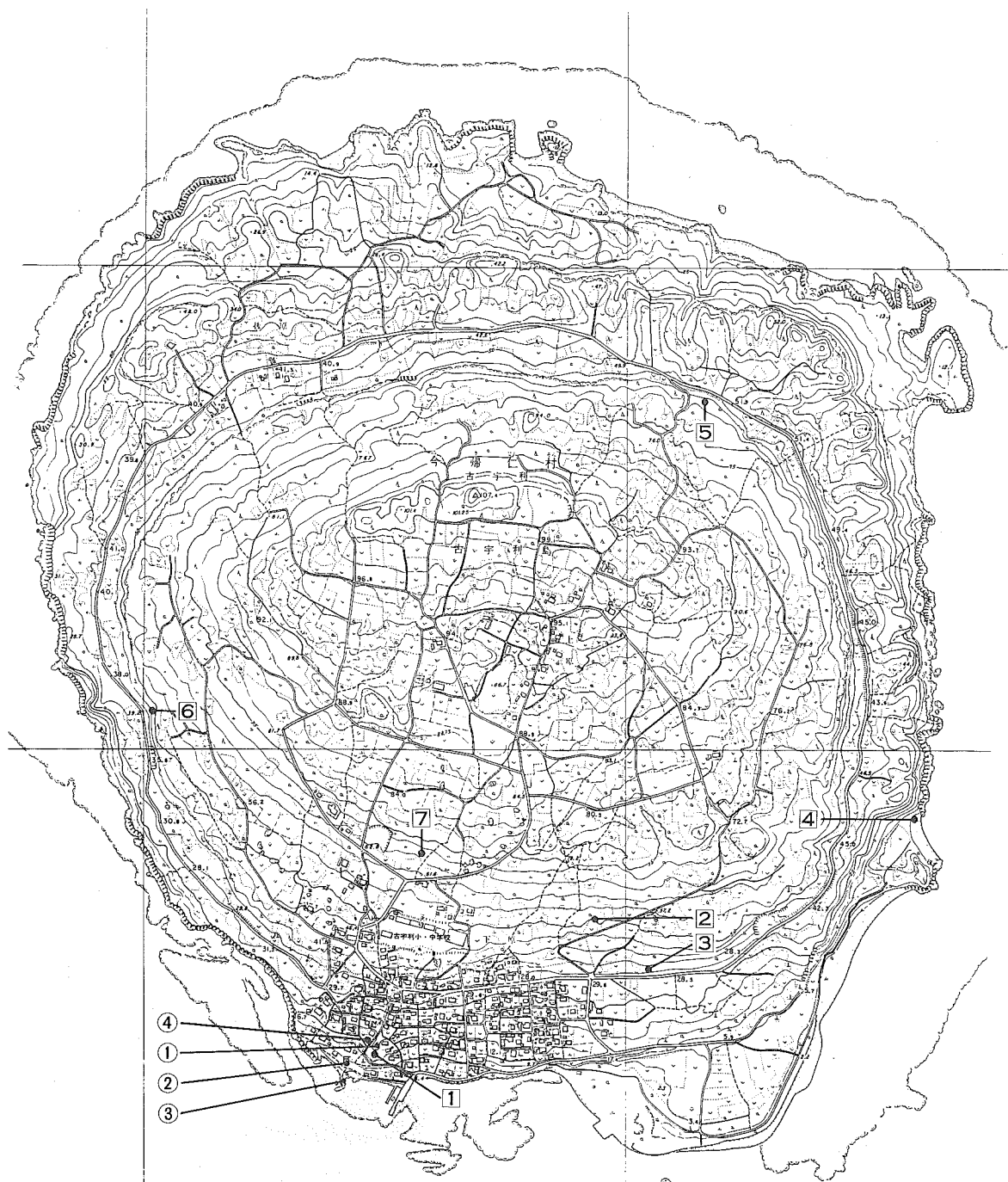
ウルシミ神



ウンジャミとき、神アシャギで、ヌミを持って〈神遊び〉をする神女たち。



ウンジャミのとき、フンシャーの庭で、ウルシミ神の祠に縄をかけて〈舟漕ぎ儀礼〉を行う神女たち。



- ① 神アシャギ
- ② クワツサヤー (お宮)
- ③ シラサ
- ④ ウミシル神

- ① ナカムイ
- ② マーハグチ
- ③ トウンガヌウイ
- ④ ソーヌウタキ
- ⑤ ブトウキヌメー
- ⑥ ビジヌメー
- ⑦ マチジヌウイ

42 古宇利島における祭場の分布